



発行：神戸大学大学院医学研究科小児科 こども急性疾患学部門

神戸こども初期急病センター



2011年4月受診者数：2703人

訴え

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

- 1. 発熱 : 1710人 (1436人)
- 2. 咳 : 986人 (156人)
- 3. 嘔吐 : 756人 (390人)
- 4. 鼻汁 : 744人 (11人)
- 5. 下痢 : 491人 (91人)

疾患頻度

- 1. 急性上気道炎・咽頭炎 : 848人
- 2. 感染性胃腸炎 : 654人
- 3. インフルエンザ : 292人
- 4. 気管支炎・肺炎 : 168人
- 5. 気管支喘息 : 112人



今月のワンポイント！



3月11日に発生した東日本大震災ではたいへん多くの方が犠牲になり、今なお避難所生活を強いられている方も多数おられます。私たち神戸大学小児科学講座こども急性疾患学部門からも、今回の震災で大きな被害を受けた宮城県気仙沼市に医師を派遣し医療支援活動を行いました。現地では家屋の倒壊や焼失などの甚大な被害を目の当たりにしましたが、そのような中で復興に向けて力強く立ち上がろうとしている皆様の姿が大変印象的でした。被災された方には心からのお見舞いを申し上げますとともに、今後も少しでも復興のお役にたてるようにお手伝いをしていきたいと考えています。

さて、4月は2703の方が初期急病センターを受診されました。もっとも多いのは今月も発熱のために来院された方で、1436人いらっしゃいました。インフルエンザはわずかに減少傾向ではあるものの、A型69人、B型は143人の方に簡易検査で陽性反応がみられました。また嘔吐や下痢を主な症状として来院される方もそれぞれ390人、91人と、いまだに多くみられています。みなさま引き続き手洗い、うがいの励行をお願いします。

5月に入って日中の日差しが強くなっています。昨年は大変な猛暑でしたが、気象庁の長期予報によると今年の夏も気温は平年並みかやや高めとのことです。そうなりとやはりこわいのが熱中症です。水分摂取はもちろんのこと、塩分や糖分の摂取も同時に行ってください。また屋外で活動するときは帽子をかぶる、こまめに適度な休息をとるなどの基本的なことを守るだけで、十分に熱中症を予防できます。特に小さなお子様は脱水症になりやすいのでご注意ください。今のうちから暑い夏に向けて準備をしておきましょう。

